

# 奥のしつらい展

2022年11月3日(木)~11月27日(日)

勝興寺

嫁いだ女性たち、勝興寺の空間、「奥」。



## 展示について

貴人の妻を、「奥」や「奥様」と呼ぶことがあります。勝興寺には、戦国大名や加賀藩主前田家、また公家からの女性たちが嫁いできました。これらの女性たちは「奥」として内と外から勝興寺を支えていました。

このたびの展示では、彼女たちが暮らした勝興寺の空間「奥」のしつらいをテーマとし、勝興寺の女性たちに由来する婚礼調度品を展示します。また、女性たちによってむすばれた勝興寺と外部との姻戚関係にも焦点を当てます。

## 勝興寺に嫁いだ広悟 ー式台ー

式台では、勝興寺二〇代住職本成とその妻広悟の肖像画と、歌絵を展示します。広悟は鷹司政熙の息女で、寺伝では、この女性が嫁いだ際、「洛中洛外図屏風」（重要文化財）などの調度品をもたらしたとされています。



広悟像

## 勝興寺と婚姻 ー書院ー

奥のたのしみ ー書院ー

ここでは、女性の教養や娯楽に関する品々を展示します。

婚礼調度品には、女性の幸せへの願いがこめられた品々や、教養のための本、優雅な遊びのためのものがあります。当時の女性たちもこれらを見て日々を楽しんでいたかもしれません。



松竹梅図蒔絵貝桶

## 洛中洛外図屏風 ー書院ー

「洛中洛外図屏風 勝興寺本」は京都の様子を描いた美しい屏風で、勝興寺二〇代住職本成妻の広悟もしくは勝興寺第二三代住職准教のもとに嫁いだ本願寺第一二世准如の娘によりもたらされたと考えられています。

勝興寺の書院では、「洛中洛外図屏風 勝興寺本」（レプリカ）が常時展示されています。

## 奥のよそおい ー金之間ー

「金之間」と呼ばれる奥書院は、壁や建具に金箔が貼つてあり、豪華絢爛にしつらえられています。ここでは、「奥」で過ごす女性が身だしなみを整えるために用いる品々を展示します。



葵紋蒔絵柄鏡掛・柄鏡